

1. スマートメーター導入拡大ビジョンの策定

- ▶ 「大阪市水道局経営戦略（2018～2027）」のICT施策の実施計画として「大阪市水道局ICT計画」を平成30年3月に策定。コロナ禍の経験を機に内容を見直し、ICTの徹底活用による**水道DXの推進**を掲げ、取組を実施。
- ▶ 水道スマートメーターの導入は水道DX推進の重要施策の一つとして、導入効果の創出や課題解決に向けた**当面5か年の具体的取組みとその後の方向性**をとりまとめ、「スマートメーター導入拡大ビジョン」として新たに策定。

2. めざす姿 ～水道スマートメーターのある社会～



概ね2030年代初頭から市域全域へのスマートメーター設置を進め、**2030年代の全戸導入**をめざす

3. 大阪市の現状と市域全域への導入に向けた課題

- ▶ 平成31年4月より、G20を機に南港咲洲地区に先行導入し、遠隔自動検針実施（81か所）
- ▶ 今後の導入拡大に向けては、**コストの低減**や**データ活用による価値の創出**が課題
- ▶ 電力・ガス事業者など他事業者との連携についても併せて検討

コストの低減▼

従来型メーターより高額な導入費用
無線通信困難箇所への個別対応
など

データ活用による価値の創出▲

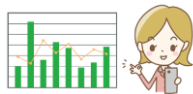
お客さまの利便性向上の取組み
事業効率化へのデータ活用策
など

4. 当面5年間の短期の取組 ～導入効果の創出～

○お客さまサービスの向上

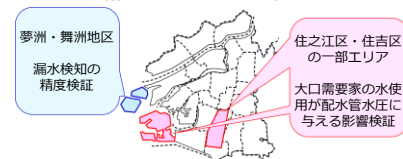
お客さまが水道使用量をWeb上で確認できるシステムを構築、将来的に水道スマートメーターデータの「見える化」につなげる。

- ・漏水や蛇口の閉め忘れ発見
- ・安否確認サービス
- など新たなビジネス創出に寄与



○配水運用への活用

先行導入エリアにおいて、スマートメーターデータの**配水運用への活用**を検討。



○スマートシティへの貢献

国勢調査や住民基本台帳など従来の統計情報では得られない**リアルタイムな人の動態の可視化**によりオープンデータへの利活用を検討。



○料金請求の効率化・業務システム最適化

従来のアナログベースの**業務プロセスのDX化**を推進。合わせて、業務システムの最適化やメーターデータ管理システム（MDMS）の構築に取り組む。

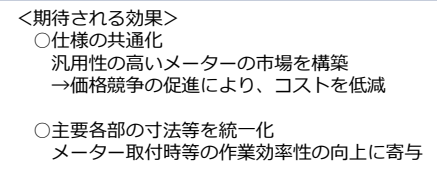


5. 当面5年間の短期の取組 ～導入に向けた課題解決～

(1) 導入コストの削減

① メーター等の仕様共通化

型式や各部寸法、通信方式などの各仕様の共通化を検討



② 他事業者との連携の可能性（共同検針や付加価値の創出）



(2) パートナーシップの推進

① 他都市・民間事業者との連携の取組

- ・東京都、横浜市との3都市連携
- ・A-Smartプロジェクト（国、他都市、民間）



② 官民連携による共同研究の実施

令和3～4年度（予定）
最適なMDMS（メータデータ管理システム）の検討

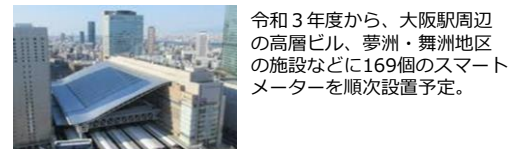


(3) 既存市街地への先行導入による検証

<咲洲地区> 令和元年度～



<大阪駅周辺、夢洲・舞洲地区ほか> 令和3年度～



6. 当面5年間以降の中長期の取組 ～市域全域への導入拡大に向けて

2030年代の全戸導入に向けて、2020年代は費用対効果等を鑑みて、大口需要家が立地する臨海部やスマートシティのモデルエリアを皮切りに、大口径メーターから順次導入を進めつつ、2030年代初頭からの小口径メーターへの展開を検討する。

